

都市整備



あきる野市では、豊かな自然環境と人々の生活が調和し、将来にわたって発展できるまちづくりに取り組んでいます。

武蔵引田駅周辺地域や秋川高校跡地では、圏央道のメリットに着目しながら、地域経済に潤いをもたらす利活用を検討しています。また、市内の各所では、公園の整備や緑の保全により、市民の皆さんの憩いの場の創出・確保を進めています。さらに、少子高齢化が進む中、市民の皆さんの生活の足となる公共交通対策にも取り組んでいます。あきる野市のシンボルの一つである秋川などの河川については、河川管理者や地域の皆さんと連携しながら、清らかな流れが保たれるよう、様々な取組を進めています。

Interview



区画整理審議会では、事業が適正に運営されるよう、慎重な審議を行っています。引田の区画整理事業の構想が示されたのは25年も前になり、当時は100戸ほどの建物を除けば、畑と野原でした。ここ10年ほどで事業に本格的に着手し、当時を思い出すのが困難なくらい、新しい街が生まれつつあります。今後も、あきる野市の優れた環境の中で、市民が安心して暮らせる住みやすいまちづくりに尽力ができればと思います。



区画整理審議会会長 秋間 荘一さん

JR武蔵引田駅周辺におけるまちづくり



市域の中ほどに位置する JR 武蔵引田駅の周辺では、区画整理により、道路・公園等の公共施設の整備や企業の誘致に取り組み、明るく安心で、住みよいまちづくりを進めています。また、大規模事業所が新たに立地するとともに、東京都所有地である秋川高校跡地などのまちづくりも検討しています。

市民の憩いの場である公園や緑の保全・創出



市内各所に点在する公園は、市民の憩いの場となっており、安全に利用いただけるよう、施設の更新などに取り組んでいます。また、街なかに点在する緑地や秋川・平井川などの河岸段丘の緑は、保存緑地などの制度により、保全に取り組んでいます。

市民の足となる公共交通網の整備



市民の皆さんの生活の足を確保するため、公共交通対策に取り組んでいます。令和7年度からは、市内循環バス「るのバス」の2台運行や会員制のデマンド型交通「チョイソコあきる野」の運行、盆堀地域・深沢地域におけるタクシー利用助成を開始しました。

秋川、平井川などの河川の保全



本市を流れる秋川、平井川などの多数の河川は、バーベキューや釣りなどを通して親しまれ、本市の魅力の一つとして知られています。市では、河川管理者と連携しながら、河川の維持・管理に取り組んでいます。また、清流保全条例、清流保全協力員制度などにより、市民自らが河川を守る取組を進めています。

Interview

交通の発展が地域の発展に繋がるとの信念の基、デマンド型交通「チョイソコあきる野」の運行をしています。日々の運行では、車が見えなくなるまで手を振ってくれる方や利用者同士のコミュニティ（小さな出会い）を肌で感じるができるなど、大きなやりがいを感じています。今後も地域の足を地域全体で守るまちづくりに協力できればと思っています。

横川観光株式会社 代表取締役社長 山口 和彦さん



産業振興



あきる野市では、地域資源を生かした農林水産業や観光業の振興、起業支援や商店街の活性化による商工業の振興により、地域経済の活性化に取り組んでいます。

秋川渓谷など、魅力あふれる秋川流域に多くの方々に訪れていただけるよう、PRや観光施設の整備などを進めています。また、地域で生産し、地域で消費する地産地消型農業などにも取り組み、とうもろこしやのらぼう菜、秋川牛、鮎（江戸前アユ）などは、特産品・名産品として広く知られています。商工業の振興では、新たな事業者による起業・創業などの支援や、商工会や金融機関との連携の下、資金調達などの支援に取り組んでいます。

Interview



妻の勧めで40代になる頃、就農いたしました。仕事として営農していく厳しさは感じましたが、市やJAのバックアップもあり、現在はネギと小松菜を中心に直売所を通じて学校給食の納品、スーパー、卸業者などへ販路を広げ頑張っております。

今後、同じように、農業を選択される方がより増えてほしいと思いますし、あきる野市の農業を少しでも支えられるよう努力していきます。



市内「認定新規就農者」第1号 工藤 健一さん

近隣自治体、関係団体などと連携した観光振興



本市をはじめとする秋川流域には、ハイキング、川遊びなどを堪能できる多数の観光資源が存在しています。また、秋川溪谷瀬音の湯やフレア五日市などの観光施設を整備しています。これらを生かすため、近隣自治体、関係団体などとの連携の下、ポスター、HP、SNSなどを活用した情報発信、観光キャラバンの展開などにより、本市の魅力発信に取り組むとともに、観光ルートの整備などを進めています。

商工業者の支援と商工業の振興



商工会や関連機関との連携により、人材の確保や事業承継の支援を推進するとともに、経営改善や販路拡大を図り、資金調達や設備導入等を支援しています。また、あきる野創業・就労・事業承継支援ステーション Bi@Sta において、起業・創業・事業承継の支援に取り組んでいます。

地産地消型農業と農作物のブランド化の推進



市では、担い手の育成・確保、遊休農地の有効活用など、地産地消型農業を推進しています。また、本市で栽培される「とうもろこし」などを地域ブランドとして、ふるさと納税の返礼品としているほか、「とうもろこし焼酎」「のらぼう菜のお味噌汁」のPRなどに取り組んでいます。

江戸前アユのブランド化



東京を流れる多摩川は、かつて多くのアユが遡上する河川で、ここで獲れるアユは徳川將軍家への献上品とされていました。近年では、遡上してきたアユを「江戸前アユ」と呼び、より多くのアユが遡上できるよう、魚道の機能回復などに取り組んでいます。夏の訪れとともにやってくるアユの遡上の時期には、多くの釣り人が秋川を訪れています。

Interview

秋川漁業協同組合では、海から遡上してきた多摩川の鮎を「江戸前アユ」としてブランド化を進めており、全国の鮎が集まる「清流めぐり利き鮎会」では、過去3度準グランプリを獲得しました。この鮎をシンボルとして、自然の恵みをいただく上で、きれいな川を作るとともに、鮎が活発に生息できる、鮎が遡上しやすい環境整備を進めています。

秋川漁業協同組合 代表理事組合長 安永 勝昭さん



市民生活・環境



あきる野市では、地域の皆さんとの絆を紡ぎながら、生物多様性の保全や地域コミュニティの活性化、防災対策の推進、ごみの減量などにより、安全・安心なまちづくりに取り組んでいます。

本市の豊かな生物多様性を地域の財産の一つと位置付け、希少種の保全など、様々な活動を行っています。また、まちづくりのパートナーである町内会・自治会と連携し、消防団や地域コミュニティの活性化に取り組むとともに、地域の皆さんと共に地域防災力の強化を図っています。さらに、清潔で快適なまちを将来にわたって保てるよう、ごみの減量やリサイクルシステムの構築などにも取り組んでいます。

Interview



廃棄物減量等推進員は、あきる野ごみ会議として、ごみ情報誌『へらすぞう』を発行しているほか、生ごみ堆肥化講習などを行っています。ごみの減量については、ごみ袋をサイズダウンするなど、ごみの量を少なくする意識付けがとても大切だと感じています。大人の意識はなかなか変わらないので、小学校の出前授業などを通じて、子どもから大人へ、ごみ減量の働きかけが行われるといいなと活動を続けています。



廃棄物減量等推進員 会長 関口 千恵さん

生物多様性の保全の推進



市域の約 6 割が森林であることなど、豊かな自然環境は本市の財産の一つです。こうした自然環境に息づく生物多様性を保全するため、「森林レンジャーあきる野」や「森の子コレンジャー」による様々な活動を展開しています。また、「小宮ふるさと自然体験学校」では、市内の小・中学生を対象に、様々な自然を体験する「森っこサンちゃんクラブ」や、10 人以上の団体を対象とする自然体験事業を実施しています。

地域コミュニティの活性化



人口構造が変化する中、地域コミュニティの重要性はさらに高まっています。地域コミュニティの維持・活性化を図るため、まちづくりのパートナーである町内会・自治会への加入促進に対する支援、コミュニティ事業交付金による支援など、町内会・自治会や各種団体の継続的な支援に取り組んでいます。

地域防災力の強化



激甚化・頻発化する災害から、生活や命を守るためには、行政による災害対策だけでなく、市民の皆さん一人ひとりの災害に対する心構えや知識と備えが重要です。本市では、防災・安心地域委員会と連携し、防災訓練や「地域防災リーダー」の育成事業に取り組んでいます。また、消防力の充実に図るため、消防団の組織強化などに取り組んでいます。

ごみを減らし、まちをきれいにする取組



清潔で快適な循環型社会システムを構築するため、ごみ情報誌『へらすずう』の発行、資源とごみの出し方カレンダーの充実、企業と連携したリサイクルシステムの構築などにより、ごみの適正処理と減量化・資源化に取り組んでいます。また、春と秋の年 2 回、町内会・自治会と一緒に市内の環境美化を推進する一斉清掃を行っています。

Interview

植物や動物について知りたいと思い、コレンジャーに入りました。お兄ちゃんもコレンジャーの活動をしていて、いちごなどを食べたりできていいなと思いました。まだ活動は 1 回しかしていないけれど、木で名札を作ったり、絵を描いたり、大きいムカデも見ました。これからは、ビオトープ（生物が生息・生育できる空間のこと）の整備が楽しみです、大きいへびも見たいです。

森の子コレンジャー第 15 期生 青木 将太さん



保健福祉



あきる野市では、市民の皆さんが生涯を通じて健康で安心して過ごせるよう、子育て支援の充実、健康づくり、住み慣れた地域で高齢者の皆さんが安心して暮らせるまちづくりなどに取り組んでいます。

あきる野子育てステーションこころのを中心に、子育てに関する相談支援や、子どもたちが遊べる場所の確保などを進めています。また、地域の皆さんが「子ども育成リーダー」となり、子育て支援の活動を行っています。市内の各所では、市民の皆さんと行政が連携し、食生活や運動など、様々な健康づくりの活動を実施しています。さらに、地域や事業者の皆さんと連携し、高齢者の見守り活動などに取り組んでいます。

Interview



あきる野ルピアには、2ヵ所の子育てひろばを開設しており、子育て中の親子が気軽に集い、交流できる場としてご利用いただいております。初めての方にも安心してお越しいただき、笑顔でお帰りいただけるよう心を込めてお迎えしています。

今後は、より多くの方々に立ち寄っていただけるよう、さまざまなきっかけづくりに取り組んでまいります。皆さまとお会いできる日を、楽しみにしております。



子育てひろば るびああきる野っ子 保育士 本田 知子さん

安心して子どもを産み育てられるまちづくり



妊娠期から出産、子育て期にわたるまでの切れ目のない支援を行うため、あきる野ルピア2階の「あきる野子育てステーション こころの」では、子育てに関する様々な相談をお受けしたり、子どもたちが遊ぶことのできるスペースなどを用意しています。また、子育て支援ガイドブック、のキッズ Web では、子育てに関する情報提供を行っています。

地域子ども育成リーダー事業



子ども・子育て支援を支える地域づくりの推進を目的に、あきる野市地域子ども育成リーダーを設置しています。市が主催する特定の研修を受けることでリーダーになることができ、各自が自発的に、自由に、できる範囲で、子ども・子育て支援について活動しています。

市民とともに取り組む健康づくり



市民の皆さんが健康に日々を過ごせるよう、あきる野市健康づくり市民推進委員会や、めざせ健康あきる野21推進会議（21Step II）と連携し、様々な健康づくり活動を行っています。めざせ健康あきる野21推進会議では、市民ボランティアメンバーと行政が一緒になって、計画の周知、栄養・食生活、運動の分野について様々な事業を企画・運営しています。

住み慣れた地域で高齢者が安心して暮らせるまちづくり



高齢の方が住み慣れた地域で安心して生活できるよう、地域や事業者の皆さんと連携し、多様な見守り活動に取り組むなど、高齢者を支える地域づくりに取り組んでいます。また、介護人材の確保・定着・育成や、介護サービスの基盤整備に取り組んでいます。

Interview

健康づくり市民推進委員会では、毎年秋に開催する健康のつどいのほか、市内各地域で健康づくりのPRをしています。推進委員の活動を通じて自身の健康にも気づきがあり、委員同士の仲間の結びつきも得ることができました。コロナ禍以降、食事の実食など事業が縮小したものもありましたが、市民の方の直接の反応を大切にしたいので、新しい方法を考えて活動を続けていきたいと思っています。

あきる野市健康づくり市民推進委員会 会長 田中 恵子さん



教育・文化・スポーツ



あきる野市では、児童・生徒が安心して学ぶことができる学校づくりに取り組んでいます。

学校では、地域・家庭と連携し、地域と共にある学校づくりや、せせらぎ教室などを活用した誰一人取り残さない学びを保障する取組を行っています。

また、寿大学などを通じて、市民の皆さんが生涯を通じて学ぶことができる環境づくりや、誰もがスポーツに親しめる環境づくりなどにも取り組んでいます。

さらに、文化財の一つである私擬憲法「五日市憲法草案」を展示し、本市の歴史・文化などを発信しています。

Interview



60歳を過ぎて、新しい場での出会いを求めて寿大学の受講を開始しました。以来17年、役員の経験もさせてもらい、無理なく勉強させてもらっています。これまで印象に残っているものは、西多摩の子どもの詩や古典をテーマにした講義や、中学生の主張大会の講座です。寿大学は、試験も宿題も受講料もない、素晴らしい取組なので、もっと多くの人に知ってもらい、新しい世界に飛び込んでもらいたいと思います。



あきる野市寿大学秋川校 役員会会長 石倉 百合子さん

あきる野の香りがする「あきる野っ子」が育つ教育の実現



学校、地域、家庭が連携し、地域とともにある学校づくりに取り組んでいます。GIGA スクール構想により整備したタブレット端末をさらに活用するとともに、るの R やカラフルルーム、せせらぎ教室などを活用して、誰一人取り残さない学びを保障する取組を継続します。

生涯を通じた学びの場「寿大学」の設置



生涯を通じた「学び」の取組の一つとして、市では、60 歳以上の高齢者を対象とした「寿大学」を開講しています。寿大学には秋川校と五日市校があり、幅広い分野の講義や歌舞伎鑑賞教室・社会見学などの行事を織り交ぜた多彩な講座を年間を通して各校年間 20 回ずつ開催し、約 900 人の方がいきいきと楽しく学習しています。

五日市憲法草案の展示



本市には、歴史ある建築物や歌舞伎など、多くの文化財が存在しています。その一つである五日市憲法草案は、昭和 43 (1968) 年にあきる野市 (当時五日市町) 深沢にある土蔵の中から発見された私擬憲法 (民間有志による私案の憲法) です。中央図書館では、毎年 2 回の展示を行っています。

みんなでつくろう「スポーツ都市あきる野」



誰もが生涯を通じてスポーツ・レクリエーション活動に親しみ、身近にスポーツを楽しめるよう、元気でスポーツに親しむ健康なまちを目指し、各種大会や教室、講習会などを実施しています。これらの取組に当たっては、あきる野市スポーツ協会や総合型地域スポーツクラブなどと連携しています。

Interview

あきる野市スポーツ協会には競技団体30とスポーツ少年団11が所属し、競技力の向上だけでなく、健康づくり、仲間づくりなどを目標に常時活動しています。また、スポーツ施設が快適な環境で利用できるよう市から委託を受けて、その一部を自ら管理しています。スポーツは「する」「見る」「支える」、どれも楽しいです。新種目を増やすなど「スポーツ都市あきる野」をさらに発展させることに貢献できればと思います。

NPO 法人あきる野市スポーツ協会 会長 吉田 榮久夫さん



行財政



Interview



都内でゆったり過ごせるところに移住したいと思い、都心にも通いやすく、川などの自然環境も良い所ということで、あきる野市を選びました。移住してからは、家で家族という時間が増え、花が咲く時期やホタルが飛ぶ時期で季節の移ろいを感じながら暮らせるようになりました。これからの夢として、あきる野を訪れる人にマチの良さを伝えられる、このマチに関心を深めてもらえる場を作っていきたいと思っています。



移住・定住コンシェルジュ 末岡 真理子さん

あきる野市では、より良いまちづくりを将来にわたって続けていくため、人口減少対策や自主財源の確保、人材育成などに取り組んでいます。

人口減少対策としては、オーダーメイド型の市内案内などにより、移住・定住の促進に取り組んでいます。また、自主財源を確保するため、ふるさと納税の活用を進めており、市内の事業者の皆さんと連携し、返礼品となる特産品の開発なども進めています。さらに、友好姉妹都市などである宮城県栗原市、東京都大島町、アメリカ合衆国マールボロウ市とは教育交流事業を実施しており、将来を担う子どもたちの育成などに取り組んでいます。

移住・定住の促進



生産年齢人口の減少に歯止めをかけるため、令和5年度から移住・定住相談窓口を開設し、東京都初のオーダーメイド型の市内案内、ふるさと回帰支援センター・東京等におけるイベントの実施、様々な機会を捉えた本市の魅力発信など、本市ならではの工夫をしながら、地域のありのままを知ってもらうための移住・定住支援事業に取り組んでいます。

ふるさと納税の活用



本市の特産品等をPRし、関係人口の創出や自主財源の確保を図るため、ふるさと納税の活用を推進しています。市内の事業者の皆さんと連携し、地域の特産品や工業製品を生かした返礼品や体験型の返礼品の開発、返礼品の種類の追加などに取り組み、成果が出ています。

マールボロウ市との教育交流事業の実施



国際姉妹都市であるアメリカ合衆国マールボロウ市との教育交流事業として、本市の公立中学校に通う中学生による海外派遣事業とマールボロウ市友好訪問団の受入事業を行っています。日米の双方において、ホームステイや学校体験を通じて、国際的な視野を持つ人材の育成に取り組んでいます。

栗原市・大島町との教育交流事業の実施



友好姉妹都市である栗原市と本市の公立中学校に通う中学生による友好親善交流会を実施し、生徒会活動や部活動を通じて交流を深めています。また、友好都市である大島町とは、羽村市との共同開催により、両市の小・中学生が大島町を訪れ、地域や年齢を超えて交流し、三原山登山・海水浴・ふるさと体験などを通じ、協力し合うことの大切さや喜びを学ぶ、子ども体験塾を実施しています。

Interview

幼稚園の頃から英語を習っていて、自信はなかったけれど派遣事業に申し込みました。マールボロウ市に行って驚いたことは、向こうの人がとても気さくでパワフルで明るい反応を示してくれたことです。派遣事業に参加して、自分の思いを言葉にして伝えることの大切さを学びました。今後は、この経験を活かして、国際関係の大学に進みたいと思っていますし、ホストファミリーにも再会したいです。

あきる野市中学生海外派遣団員（令和6年度） 細渕 希々花さん

